

当院の看護キャリア開発ラダーの構造

		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
定義		基本的な看護実践手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する。	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する。
目 標	看護 見える力	助言を得てケアの受け手や状況（場）のニーズをとらえる。	ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる。	ケアの受け手や状況（場）の特性をふまえたニーズをとらえる。	ケアの受け手や状況（場）を統合しニーズをとらえる。
	実践 ケアする力	助言を得ながら、安全な看護を実践する。	ケアの受け手や状況（場）に応じた看護を実践する。	ケアの受け手や状況（場）の特性を受け手や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する。	様々な技術を選択・応用し看護を実践する。
	能力 協働する力	関係者と情報共有ができる。	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる。	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる。	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる。
	力 意思決定を支える	助言を得てケアの受け手や状況（場）のニーズをとらえる。	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる。	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる。	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる。
組織 役割遂行能力	安全管理・自己管理 目標管理・接遇・倫理・業務管理・	医療人・組織人としての役割を理解できる。	組織の一員として、責任ある行動がとれる。	組織の役割をもとに、主体的にリーダーシップを発揮できる。	主体的にリーダーシップを発揮し、看護専門職としての役割モデルとなれる。
自己 教育研究能力	教育活動・看護研究	専門職として継続教育の必要性が理解できる。	専門職として継続教育に取り組むことができる。	専門職として継続教育に取り組み、入職者・異動者・看護学生に指導的な役割を実践できる。	専門職としてキャリアアップに取り組み、看護部・部署の教育活動に参加できる。